

日本のうたごえ祭典・京都 まであと一か月半となりました。本番に向けて練習に励んでおられることと
思います。指揮者の方々にそれぞれの曲の歌い方について寄せて頂きました。

音楽会Ⅱ ♪女 指揮:藤井幸枝さん

① この曲を歌う時に頭においていただきたいことが二つあります。一つは、主人公は「おおやけ」を信じ
続けて(信じたいと思いつけて)来た女性だと言うことです。平仮名表記なのは、日常の暮らしから国家・
世界まで言葉の抱える領域に広がりがあることや、「おおやけ」を唱える側の意図と受け止める側の印
象の違いなど、たくさんの意味合いを含んでいるからと考えます。もう一つは「それでもまだ」です。
ひとつの事件、一人の人生に留まらず、長い年月の中で生きてきた女性達の姿が描かれています。

② ☆前奏ピアノ、始めの2小節で「ラドドラレー(それでもー)」の旋律が2回聞こえます。3小節目、3回
目の「ラドドラレー(それでもー)」まで到達したところで大きな事件が起こり、崩壊しながら4分の5
拍子に落ちて行きます。続いて今まで沈殿していた思いの放出を促すようにピアノが *crec.*。そのスピ
ードに乗って「それでもまだ信じていた。」と歌が始まります。戦中戦後を生きた石垣りんにとって「戦
い」は特別な意味合いを持ちます。 *crec.* ~ *decrec.* を意識しましょう。

☆「役所を 公団を 銀行を 私たちの国を」最も信頼を寄せるべき部署の名前の列記です。子音をたて
てマルカート気味に。「を——」は小さくせず、*f* のままで。次は対照的に「あくどい家主 高利貸
詐欺師」など古典的な(分かりやすい)悪者の登場です。皮肉めいていますね。臨時記号を活かして、
旋律に乗ってややレガートに。ただし名詞の頭ははっきりとお願いします。そして「おおやけというひ
とつの人格」の登場です。「おおやけ」は *ff* でアクセント付きですが、怒鳴らないで三度の声部の重
なりを潔く。繰り返しの「ひとつの～」は階段を下りるように明確に *mf* に。
「じんかくを——」の *decrec* と *un. poco. rit.* でひとつの場面が終わります。

③ 合唱前2小節、ピアノで始まりと同じ旋律が *p* で現れ、合唱も *p* で続きます。②のような臨場感は薄
れ、時の流れの中での反復、再度の思いの沈殿を連想させます。時の刻みを表すピアノのラの音に誘わ
れて「lulululu」。ソプラノは「それでもまだ信じていた」、アルトは「それでもまだ」の歌詞を当ては
めて練習してみてください。女たちのつぶやきが聞こえます。

④ ピアノが *ff* で③の場面を断ち切り、女性たちはすっと立ち上がります。1度目の「もういいのです」
は外に向けてはっきりマルカートで、2度目の「もういいのです」は確かめるように自分に向かってレ
ガートで。最後「私が愚かだったのですから」は、さばさばとした気分で軽やかに。最後3小節のピア
ノは眼差しを上げて胸を張る女性たちの自立する瞬間です。最後まで演じてください。

*最後まで読んでくださってありがとうございます。

楽譜上の表記はそのまま演奏しますのでよろしくお願いいたします。 藤井幸枝

『芭蕉布』の歌い方は裏面です

連絡先
宇城典子：090-8535-8949
藤原一恵：090-9690-0268

「女声合唱をつなぐ会」ニュース③ -2

音楽会Ⅲ ♪ 芭蕉布 指揮:渡辺享則さん

演奏に寄せて、こんなことを考えています。

まず楽譜の最初に Allegro と書いてあります。これは速度記号で「速く」(♩≒132) という意味ですが、僕はむしろ「元気よく」という風に解釈したいと思います。メトロノーム記号では♩≒112 ぐらいでしょうか。あるいはもう少しゆるやかでも良いですが、伸びやかに明るく歌いたいと思います。

次に、42 小節と 85 小節 (90 小節) でスラーのついている位置が違うこと。通常は、言葉を長く伸ばして歌う音符はスラーを付けることが記譜上の通例なので 42 小節は間違いかもしれません。しかし、実際、「ま」で伸ばすのでそんなに違いはないのですが、敢えてリズムの感じ方として僕はとらえたいと思います。この辺は編曲の石若氏に確認をするつもりです。したがって、楽譜上でスラーのついているところはしっかりとつなげて母音の処理を (母音を押さないように) したいと思います。

フレーズは基本的に 8 小節で一つに。特に歌い出しの「海の青さと空の青」「南の風に緑葉の」は切らない。大合唱になると思いますので頑張りたいと思います。ダイナミズムは mf で。そして「芭蕉は情けに」は mp で優しくうたい、「手を招く」で広がる。(mf のように)。そして、次の「常夏の国」で mf の crescendo で鮮やかに大きくなって、「我した島うちな」をフォルテで受ける。「我した」の前は上手にプレスをしてください。息の流れを大事にしましょう。そこに言葉を乗せて歌うようにします。基本的にはこんな感じで 1 番 2 番を歌いたいと思います。

練習ナンバー C は歌い出しおよび上段は S1 のソリで、64 小節下段のオブリガートは、上を S2、下を A で、メノモツソで歌います。65 小節の「ウ」はウーとしっかり発音します。その前の「ヲ」はオーで。「唐のウー」という意味です。

D からはしっかりとテンポを戻して mf で。「浅地紺地の」は明確な cresc. で「我した島うちな」の f につなげます。繰り返しの「我した島…」は明確なメノモツソでしっかりと、そして、「うちな」の前でプレスをして歌い切りましょう。最後のフェルマータの前でもプレスをしてよいです。

以上です。長い文になりました。こんな感じで、練習で作り上げたいと思います。

沖縄に行くと、よく耳にし、心に残る美しいメロディー。「芭蕉布」は 1965 年に発表され、“海の青さ” “空の青さ” など沖縄の豊かな自然と、沖縄特産の織物芭蕉布に託したウチナー (方言で沖縄の意味) のこころを歌い上げています。「芭蕉布」が生まれた 65 年の沖縄は、米軍の軍事占領下から離脱を望む県民、島ぐるみの祖国復帰闘争の真っただ中、「オール沖縄」「沖縄のアイデンティティー (帰属意識)」の源流とも言われています。

沖縄の誇りと尊厳をかけて歌いあげたと思います。よろしくお願いします。 渡辺享則

『女』の歌い方は裏面です

連絡先

細川美代子：090-5044-3743

谷村千鶴子：090-9625-0524